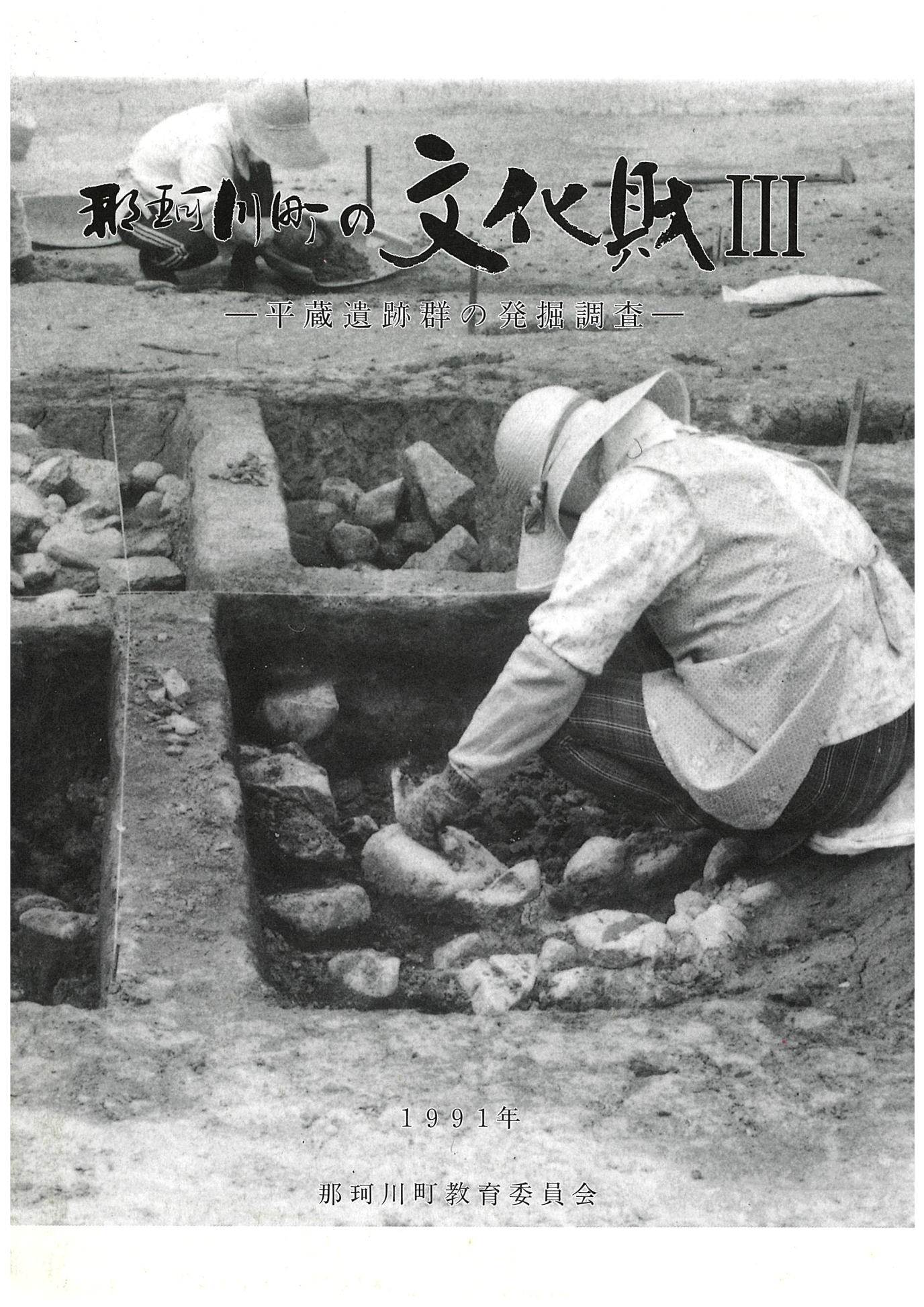




那珂川町の文化財Ⅲ

—平蔵遺跡群の発掘調査—

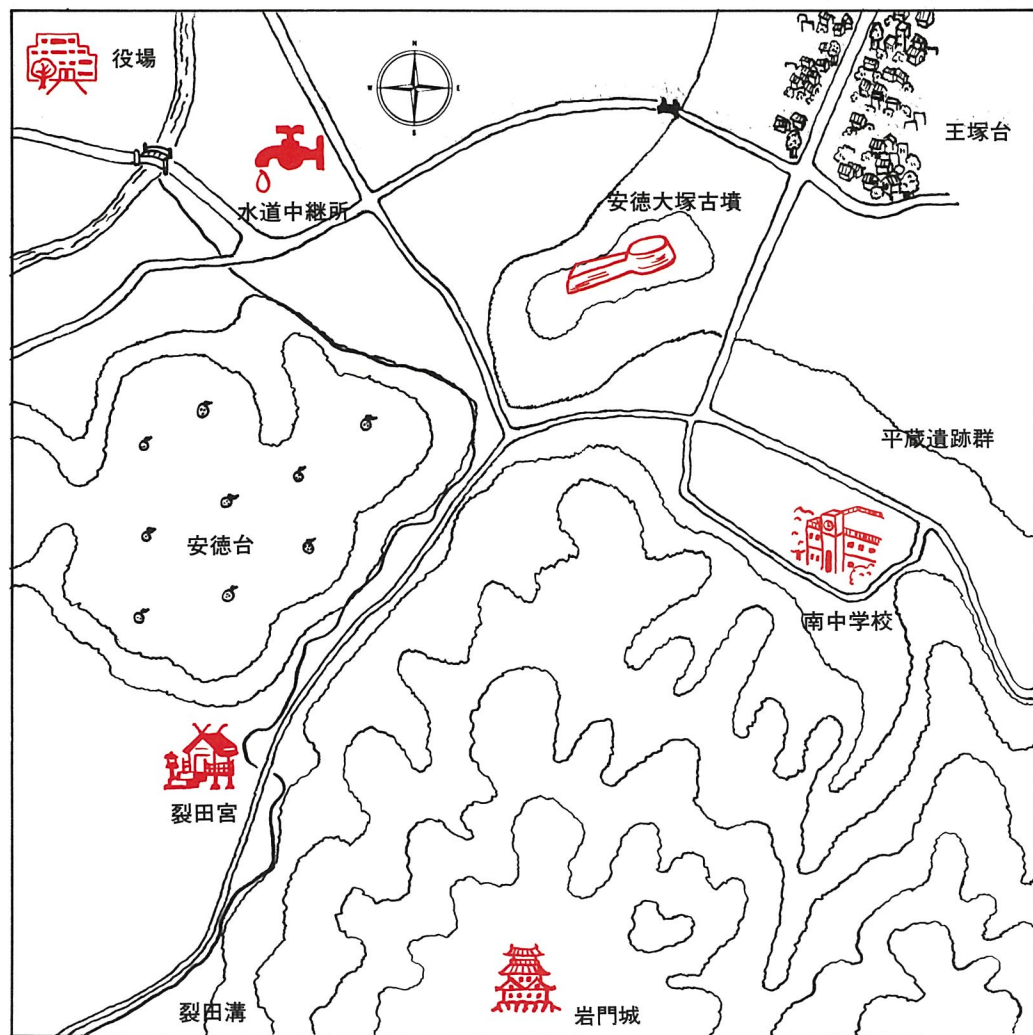
1991年

那珂川町教育委員会

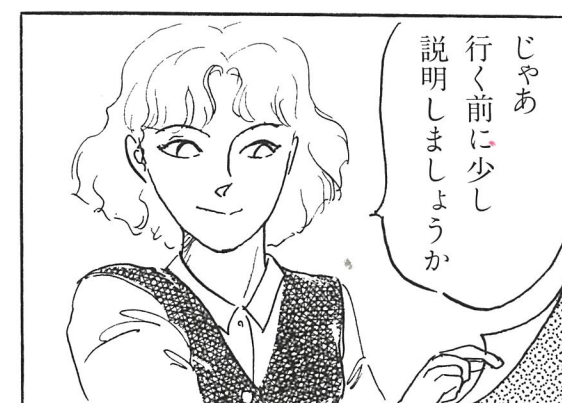
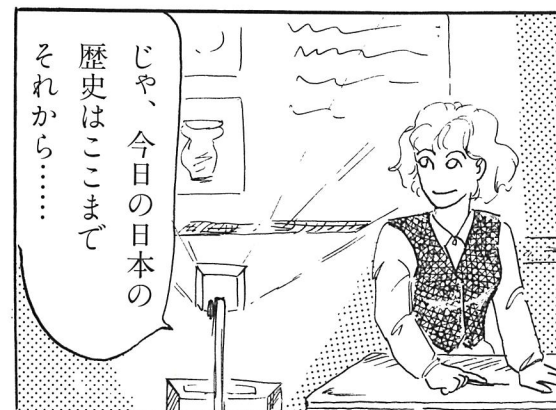
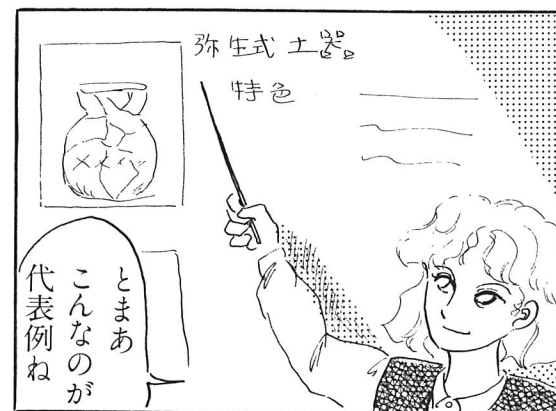
那珂川町は自然の環境に恵まれた緑ゆたかな町で、町内のいたるところに私たちの祖先が生活をした足跡がたくさん残されています。しかしこれらの遺跡は、年々開発が進むにつれて、自然とともにその姿を消しつつあります。

教育委員会では、遺跡が開発などによって壊されてしまう前に発掘調査をして、記録保存をおこなっています。今回紹介する平蔵遺跡もその一つで、昭和60年から62年にかけて発掘調査をおこないました。その成果は遺跡見学会、展示会などで公開しておりますが、より多くの方々に平蔵遺跡を知っていただくために、本書を刊行することにいたしました。

本書が那珂川町の歴史を知るきっかけとなり、文化財に対するご理解を深めていただく一助にでもなれば幸いです。



遺跡の場所



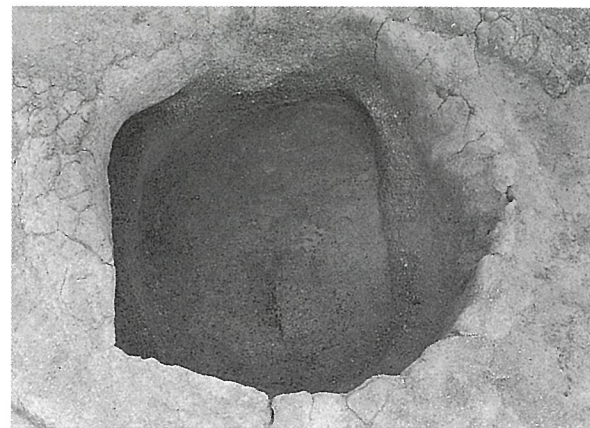
平蔵遺跡は、現在的那珂川南中学校、梶原運動公園一帯に広がる大遺跡群です。発掘調査の結果、食べ物をつくわえた貯蔵穴、人々が住んだ住居址、鉄器を作った鍛冶炉址、建物址、木棺墓などの遺構が見つかり、当時使われていた土器、石器、鉄器などの遺物がたくさん出土しました。ここでは時代ごとにその代表的なものを見てみることにします。



縄文時代の貯蔵穴

上の写真は、縄文時代の終わりごろ（約2500年前）の貯蔵穴で、深さは1m以上もあります。地上より地下のほうが気温差が少なく食べ物をたくわえるのに適していたのでしょう。

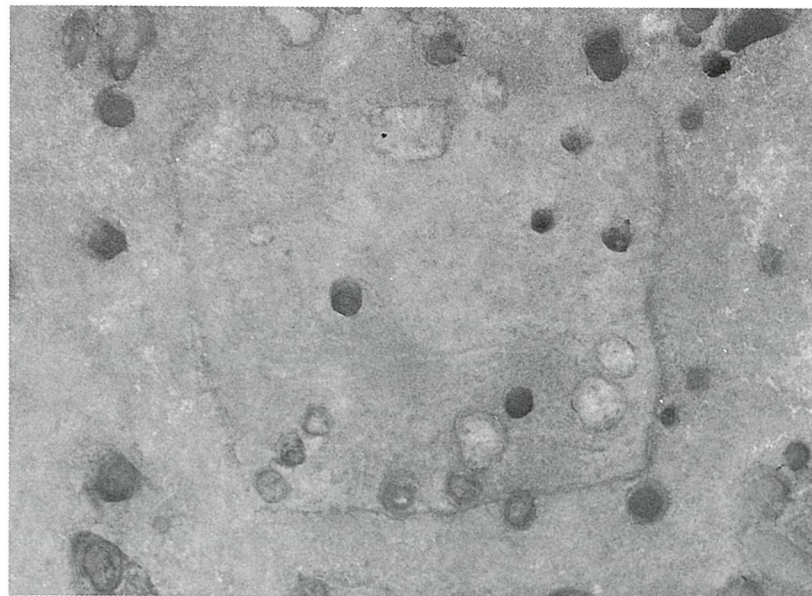
左の写真は、弥生時代（約2000年前）の貯蔵穴です。縄文時代のものとちがい、入り口を小さくし、中を広くつくっています。



弥生時代の貯蔵穴

右の写真は、古墳時代の終わりごろ（約1400年前）の住居址で、屋根は腐ってなくなっています。

古墳時代の住居



平蔵遺跡からの出土品

右の写真は、矢の先につけた石鏃、獲物の革をはぐのに使った石匙で、縄文時代のものでしょうか。

下の写真は、首飾りに使われた玉類と耳飾りの耳環で、古墳時代のものでしょうか。



上の写真は、焚き口の部分を失っていますが奈良時代のカマドで、持ち運びができるように取っ手が付いています。

右の写真は、中世の木棺墓で、
棺をとめていた釘やお供えもの
の土器などが出土しました。



木棺墓



平蔵遺跡群遺構配置図 (1/300)

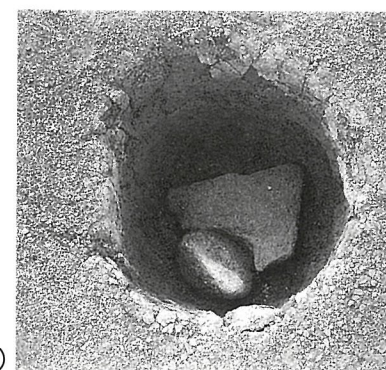
0 20



タタラ跡



ビット
(柱穴)

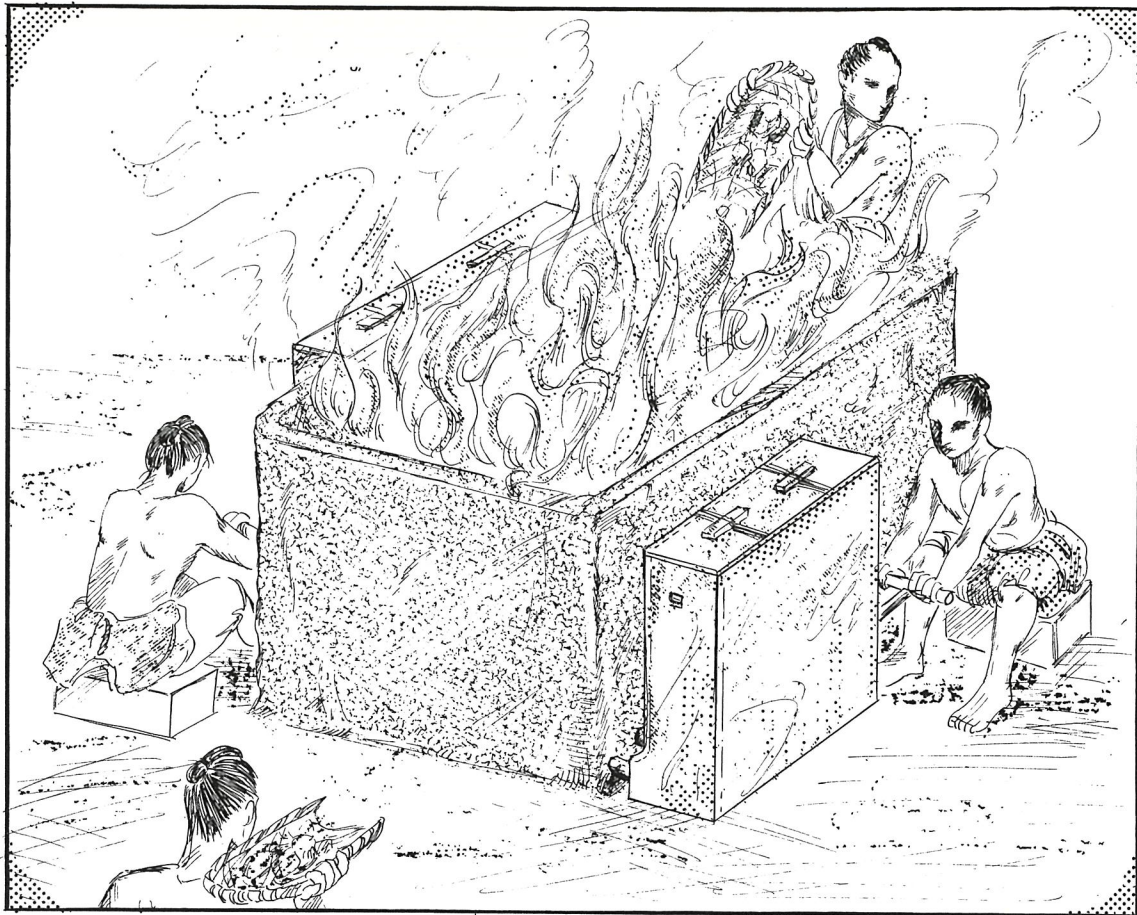


左は鍛冶炉の写真です。中央の一段
高い部分が炉の底で赤く焼けています。
右の写真は建物の跡で、柱穴がきれ



建物跡

いに並んでいるのがわかります。
また柱穴の底には、柱がしずまな
い様に石が置かれていました。



タタラの様子

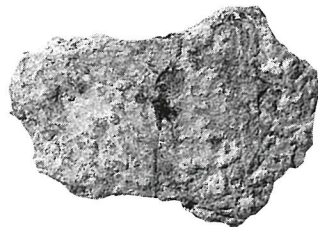


フィゴの羽口



ルツボ片

平蔵遺跡からは炉の中に風を送るフィゴの先に付けた「フィゴの羽口」、鉄をとかすのにつかった「ルツボ」の破片や、鉄滓などが出土しています。



鉄滓



土器

まとめ

今回の発掘調査で平蔵遺跡は、縄文時代から中世にかけての遺跡であることがわかりました。どの時代の遺構、遺物とも那珂川町の歴史を語る大切な資料ですが、このうち中世の遺構と遺物をたくさん発見できたことは、今までこの時代の遺跡の調査が少なかつただけに大きな成果と言えます。検出された中世の遺構は、先に紹介した木棺墓、鍛冶炉、建物址の他に土壇、溝などがありますが、とりわけ鍛冶炉はこの時代のものとしては発見例が少なく、貴重な資料となりました。鍛冶炉と思われるのは全部で7基で、いずれも土が赤くやけており、中には焼けた土と炭がつまっていました。また炉の中あるいはその周辺からは多量の鉄滓とフィゴの羽口、ルツボが出土しており、その鉄滓の化学分析から、本遺跡で鉄のかたまりからまじりものを取りのぞき、鉄器をつくる作業がおこなわれていたことがわかりました。その作業のおこなわれていた時代は、出土した土師器（上の写真と同じもの）からだいたい15世紀代と推定でき、同じ時期の建物址はその作業場あるいは倉庫と考えられます。

このように中世の平蔵遺跡は鉄器の生産をしていた遺跡と考えられますが、ここでつくられていた鉄器の種類など、たくさんの疑問点も残されているので、今後さらに資料の検討をしていく必要があります。

時 代			日 本 の お も な で き ご と	那珂川町のようす
古 代	奈良時代	700	710 奈良に都をうつす（平城京） 「古事記」「日本書紀」できる	平蔵遺跡群 （建物群）
			752 奈良・東大寺の大仏がつくられる 794 京都に都をうつす（平安京）	
	平安時代	800	天台宗（最澄）、真言宗（空海）がはじめられる	松木遺跡群 （木棺墓）
		900	894 遣唐使を廃止する 901 菅原道真、太宰府に流される 935 承平・天慶の乱	
	室町時代	1000	1017 藤原道長、太政大臣となる 1919 刀伊の入寇	
		1100	1105 平泉中尊寺できる	岩門城、完成
	鎌倉時代	1200	1167 平清盛、太政大臣となる 1192 源頼朝、征夷大將軍となる（鎌倉幕府）	大蔵種資、岩戸 （安徳台）に館を築造する
		1300	1221 承久の変 1274 文永の役 1281 弘安の役	カクチガ浦遺跡群 （木棺墓） 岩門合戦
	室町時代	1400	1334 建武の新政 1338 足利尊氏、征夷大將軍となる 1397 金閣寺できる	
		1500	1428 正長の土一揆おこる 1467 応仁の乱おこる 1488 加賀の一向一揆	平蔵遺跡群 （製鉄工房址）
中 世	安桃土山時代	1600	1543 鉄砲伝来 1573 室町幕府滅亡 1582 本能寺の変 1585 豊臣秀吉、関白となる	
		1600	1603 徳川家康、征夷大將軍となる（江戸幕府）	

